

WG1 企画書 summary 版

テーマ：天然資源管理に関する権利問題

プロジェクト名：インターネットを使ったクラスニヤール村の認知度向上プロジェクト

概要：

ビキン川流域は昔から大規模な商業伐採の危機にさらされ続けてきた地域であり、ビキン川流域の森林資源に依存した自給自足の生活続けているウデヘ族を始めとした先住民も生活も常に脅かされている現状にある。ビキン川流域の恒久的保全には連邦 TTP（伝統的土地利用リトリ）の指定が有効な手段であると考えられるが、TTP 指定へ向けた支持拡大のためにはビキン川流域の潜在的価値を多くの人に知ってもらうことが重要である。本プロジェクトの目的は連邦 TTP 指定へ向け、ロシア国内外の人々にインターネットを通じてビキン川流域の魅力を伝え、知名度の向上を図ることである。具体的には、① クラスニヤール村の村民が主体となって村の HP を作成し、ブログ等を通して村の生活や伝統を紹介する ② HP 内でパブリックコメントを受け付けや Web 著名活動を行う ③ HP を見て村に興味を持ってくれた人に実際に村に来てもらうため、村でのホームステイツアーやエコツアー、釣り・狩猟ツアーを企画し、HP 上で参加者を募るといった 3 つの活動を実施する。インターネットを使った情報発信は比較的低コストではあるが、パソコン購入費やインターネット通信費、人件費など企画実施に必要な費用に関しては、村へのツアーを通じた観光客からの収入で賄えるものと思われる。インターネットによるタイガの森の紹介やクラスニヤール村へのエコツアーはタイガの森フォーラムでも行っていることではあるが、タイガの森フォーラムが主に日本向けの情報発信であるのに対し、本企画は主にロシア国内向けの情報発信であり、村民自らが情報発信やツアーガイド行うことでより村やタイガの森の魅力を伝えることが出来るという点が特徴である。村民がタイガの森フォーラムと協力し、ツアーの計画や実施のノウハウを学ぶことで本企画はより現実味を帯び、他の環境 NGO に宣伝や企画の援助を依頼することでより効率的に情報を発信することが可能となり、ツアーの客層も広がるものと思われる。情報発信によってより多くの人に興味を持ってもらう→ツアーで村に来てもらう→村での生活やタイガの美しい景観を見てもらう→素晴らしさや親近感を感じてもらう→口コミなどで村の知名度が上がり観光客が増えるという良い循環を生みだすことが出来れば、低コストで効率的にビキン川流域の潜在的価値を多くの人に知ってもらうことが可能となるだけに留まらず、ツアーからの収益の一部をタイガの森保全活動にあてることも可能となるだろう。

「実習を終えての感想」

山田孝幸（生命科学研究科）：今回の極東ロシアでのフィールド実習は衝撃の連続でした。ビキン川流域のタイガの森の雄大さ・美しさに眼と心を奪われ、クラスニヤール村のホームステイ先の家庭料理は大変おいしく、楽しい日々を過ごさせていただきました。非常に密度の濃い内容で満足しました。ぜひもう一度あの地を訪れたいです。

酒井祐輔（生命科学研究科）：今回の実習でクラスニヤール村を実際に訪れ、事前の机上での情報収集では見えなかったものを多く見ることができた。しかし、サステナブルデザインを実践するには根気強く、もっと長期的に村と関わっていくことが大切だろう。村民とのコミュニケーションももっとじっくりとっていく必要がある。長期的な目線と根気と知識と…持続可能な社会の実現を目指し、リーダーとしてやっていくためには、それ相応の覚悟が必要だと感じた。

佟麗莉（薬学研究科）：ロシア自習はとても楽しかった。今回の自習を通じて、専門以外の経験をすることができて、環境に対する深い興味が湧いた。今後環境を大切にしながら、より良い生活と経済環境を作る、発展の持続可能な考え方にしようと思う。

阿部博和（農学研究科）：タイガの森とそこで暮らす生物や先住民が 100 年後も 200 年後も変わらぬ姿であり続けるために自分にできることはなんだろうか。そんなことを考えさせられた実習でした。

